

2023年5月15日

通貨ニュース

タイ：下院総選挙レビュー～野党勝利も民政完全移行には依然ハーダルも

タイで14日、4年ぶりとなる下院(任期4年、定数500)総選挙が実施された。結果は事前調査でも支持されたピタ氏率いる前進党やペートーンターン氏率いるタイ貢献党など野党勢力が大きく議席を拡大した。両政党の躍進によって野党勢力での下院総議席の過半数を確保することとなった(図表1)。一方、現与党勢力の中核である国民国家の力党(PPRP)やプラユット現首相が所属するタイ団結国家建設党は軒並み伸び悩んだ。今後は野党勢力を中心に連立政権の成立に向けた動きが活性化していくものと見られる。

タイでは2014年5月に当時陸軍司令官だったプラユット首相の主導で軍事クーデターが発生し、プラユット首相が政権を奪取した後は軍政が敷かれていた。こうした中で、19年に実施された前回の総選挙以降、若年層を中心に非民主的とされる憲法の改正、王室改革を求めるデモが頻発し、反政府運動が活性化したほか、経済面においても新型コロナウイルスの感染拡大による景気後退、政策失敗を批判する声が高まっておりプラユット政権の支持が薄れつつあった。さらに、今回の総選挙を迎えるにあたり党内の分裂の動きも報じられており、プラユット首相は総選挙の約3か月前にPPRPを離れ、自身の支持派が立ち上げたタイ団結国家建設党に参加して首相続投を狙うこととなった。

かかる背景もあって、現与党勢力にとっては逆風の状況での総選挙となった。代わって議席数を伸ばしたのが先述した前進党やタイ貢献党といった野党勢力だった。第一政党となった前進党は経済面では最低賃金の引き上げ、政治面では軍政の完全脱却、王室改革の推進など積極的な民主化を公約に掲げていた。タイ貢献党については東北・北部に強固な地盤を有していたほか、タクシン前首相の娘に当たるペートーンターン氏の人気も高く、次期首相候補として事前調査でも支持を多く得ていた(図表2)。前評判でも野党優勢の構図であったが、結果はほぼ事前調査と相違ないものに終わったとも言える。

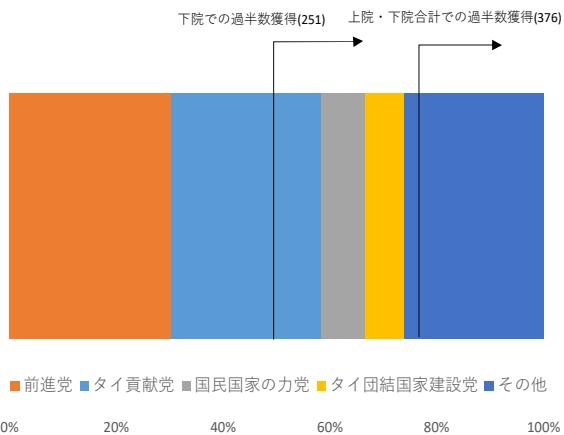
もっとも、親軍派による政権維持の可能性も完全に排除された訳ではない。選挙後の首相指名選挙は今回で選出された下院議員500名と軍政下で国軍が任命した上院議員250人の合同投票で実施されるからだ。上院議員は基本的には親軍派の意向に従う公算で、数字上では上院・下院の定員を合計した376議席を確保すれば良いということになる。今回の選挙結果を踏まえて、親軍派は126議席集めれば現政権の維持が可能となり、これは非現実的な数字ではない。

また、今回の総選挙で多くの議席を確保した前進党とタイ貢献党は特に政治改革の面で温度差があるということが指摘されており、両党での連立政権成立へのハーダルが決して低くないとする声もある。野党勢力は下院のみで過半数の376議席を獲得しなければならないため、親軍勢力を排除するには実質的に両党の歩み寄りが不可欠な状況となっている。また、両党の今回の獲得議席数を合計しても290議席程度と見られ、その他親軍派以外の政党の動きも無視できない。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 勇大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

こうした中で、今後の動向によっては、選挙前に掲げた公約の根幹を守りながら、政権獲得を優先していく政党も現れるかもしれない。連立政権成立までに時間を要し、政治の先行きが不透明化することは今回の選挙結果を終えての最大のリスク要因であり、引き続き各党の手腕が問われる状況となっている。

図表 1:タイ総選挙の議席獲得率



出所:各種報道よりみずほ銀行作成 ※現地時間 10時時点

図表 2:総選挙実施前の世論調査の状況

	所属政党	次期首相支持率
ピタ氏	前進党	35.4%
ペートーンターン氏	タイ貢献党	29.2%
プラユット首相	タイ団結国家建設党	14.8%
プラウィット副首相	国民国家の力党	1%未満

出所:各種報道よりみずほ銀行作成

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。